

大牟田市立白光中学校

1 本校のESDの特徴

本校では、総合的な学習の時間（白光タイム）を中心に、全教科、領域において、横断的・総合的にESDに取り組んでいる。主に福祉や世界遺産、キャリア教育（生き方、いのち、進路）などについて学習している。

白光中学校版SDGsは、「3すべての人に健康と福祉を」「4質の高い教育をみんなに」「11住み続けられるまちづくりを」「17パートナーシップで目標を達成しよう」の4つを目標とし、重点的に取り組んでいる。また、これらの目標の達成を目指すだけでなく、他の目標へのつながりも考えている。

このような学習を積み上げることにより、ESDで育みたい基本的な能力・態度である批判的に考える力、未来像を予測して計画を立てる力、多面的・総合的に考える力、コミュニケーション能力、他者と協力する態度、つながりを尊重する態度、進んで参加する態度の育成を目指している。さらに、が住みよいまちづくりを担う生徒、世界や次世代のことまでを見通して考えることのできる生徒を育てている。

2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画

学年等	主なテーマ		
	世界遺産学習	福祉学習	進路学習
1年		5月 認知症絵本教室 (20時間) 11月 介護体験学習 (22時間)	
2年	11月 世界遺産学習 (22時間) 鹿児島の世界遺産 (18時間)		5月 職場体験学習 (24時間)
3年		11月 保育体験学習 (25時間)	5月 上級学校訪問 (19時間) 進路学習 (21時間)
部活動等	5月・・・それいゆ祭 (こもれび) 8月・・・(明治校区ふれあい祭) 9月・・・認知症SOSネットワーク模擬訓練 11月・・・手鎌地区文化祭 1月・・・ユネスコスクール子どもサミット		

3 特徴的な活動事例の紹介

第1学年 福祉学習 (11月実施)

〈目標〉福祉学習を主とした取組を通して、様々な人や地域との関わりについて考える。

〈実践の展開〉

- 「福祉体験学習」のねらいと意義を考える。
- 福祉の仕事内容について説明を聞く。
- 福祉の仕事体験をする。
- まとめを行う。

〈生徒たちの様子〉

福祉体験では、有明高校・誠修高校・帝京大学・久留米大学・九州看護福祉大学学生から、だれもが安心して暮らせる社会を目指して自分に何ができ



福祉の仕事体験

るかをいろんな観点から話をさせていただき、考えを深めることができた。実際に福祉の仕事体験をすることで、自分たちにできることは何だろうと深く考えることができた。体験したことや感じたことなどをわかりやすくまとめ、生徒同士が学び合うことで、共生の大切さを理解することができた。

第2学年 世界遺産学習（11月実施）

〈目標〉世界遺産学習とキャリア教育を主とした取組を通して、様々な人や地域との関わり、自分の生き方について考える。

〈実践の展開〉

- 世界遺産とは何かを考える。
- 世界遺産をして、鹿児島の世界遺産と比較し、わかりやすい啓発を考える。
- 体験したことをまとめた新聞を作り、発表会をする。

〈生徒たちの様子〉

修学旅行で、鹿児島の世界文化遺産の仙巖園・反射航路を訪れた。幾度となく失敗を重ねた後に、ようやく2号炉を完成させることに成功したという。無理難題にも真っ向から向き合い、決して諦めなかった当時の薩摩人たち。その後の日本の近代化に大きく貢献した人々の努力の痕跡を、大牟田の宮原坑と重ね合わせ、偉大な先人たちに想いを馳せていた。



第3学年 高校調べ（11月実施）

〈目標〉自分の趣味や将来の夢・目標をもとに、卒業後の進路について考える。

〈実践の展開〉

- 市内近郊の高校の紹介。
- タブレットを使い自分の興味のある高校を調べる。
- 同じ高校を希望する者同士で情報を共有し、まとめ発表する。

〈生徒たちの様子〉

はじめは戸惑いながら調べ学習をしていたものの、具体的に高校を見つけ始めるとより深く調べていくようになった。三者面談による進路決定直前の時期に高校調べをして進路決定の大きな役に立った。



進路について情報を共有する生徒達



4 本年度の成果と課題

○成果

- ・コロナ禍ではあったが、これまでのG Tや地域の人々との関係を継続し、つなげることができた。
- ・各学年とも積極的な活動をして、人との関わりや自己を大切にする姿が見受けられ、異世代の人とのつながりを大切にすることや地域の発展に貢献しようとする行動変容につながった。

○課題

- ・学習をして終わるのではなく、教科や行事との横断的な学習にするため、学びのつながりを大切にし、生徒が自ら課題を持ち、主体的に課題解決できるような手立ての工夫が必要である。